



## 学校に届いた1通の手紙

～「心」や「思い」は見えないけれど「心配り」や「思いやり」は見える～

昨日12月5日(木)に、地域の方から一通の手紙が学校に届きました。  
概要は以下の通りです。

- ある公園の近くに住む女性宅の、屋外にある水道管から水が噴き出していた。
- それに気付いた通りがかりの本校の男子生徒2名が、わざわざUターンして戻ってきて、「大丈夫ですか?」という声を掛け、その女性が「自分は大丈夫。ありがとう」という返事を聞き、男子生徒は安心した様子でその場を立ち去った。
- その時は大丈夫と思ったものの、その後もなかなか水道が復旧せず再び困っていたところ、別の3人の女子生徒がその場所を通りかかった。その3人は自転車を降りて「大丈夫ですか?」と声を掛け、その女性の説明を聞いていた。そうこうしている間に、その方のご家族が帰宅し、なんとか復旧するに至った。
- その様子を最後まで見届けて、女子生徒は再び帰路に立った。

以下は、手紙の中に書かれてあった、その女性の気持ちの抜粋です。

中学生が自分の家の前を通るまでも数人の大人が通りかかったけれど、誰も対応してくれませんでした。知人に電話をかけるも繋がらず、途方に暮れていたところに中学生が声を掛けてくれました。男子は通り過ぎていたのにわざわざ戻ってきて声を掛けてくれました。女子は心配そうに私を囲み、不安な気持ちを聞いてくれました。

水道管が復旧した後も、中学生の振る舞いがとてもうれしくて、家族に「中学生はやさしいな」と何度も話をしました。



学校便りNo.36(12月4日(水)発刊)では、奇しくもこうした勇気をもった「行為の大切さ」について、以下のようにお伝えしたところです。

『思いやり』も『心遣い』も人間の『行為』によって生まれるものであり、思うだけでなく行動として一歩前進していくことが大切です。勇気を出して温かい言葉を掛け合う、勇気を出して相手が嬉しいと感じる行動を起こすなど、子どもたちには、ぜひこの人権月間で、「積極的な行為(言葉)の意味」について考え実践してほしいと願っています。」と……。



実は上記のこの出来事は、「人権集会I」の前日(12月3日(火))の出来事です。綾川中学校の生徒は、普段からこうした勇気をもった行為が当たり前のようにできているのかもしれませんが。

またこの女性は、本校の生徒の、日頃からの「挨拶」や「ヘルメットの着用」、「同じ通学路を使用する小学生を気遣った自転車走行」などに対しても、敬意を表してくれています。

お天道様はちゃんと見てくれています。誰にも恥ずかしくない生き方をしている綾川中生に拍手です。そして、勇気を出して行動したその勇気に拍手です。

改めて、令和6年度の人権月間のテーマは「Bloom#ブーケに込める愛言葉」です。今回、「大丈夫ですか?」という愛言葉がブーケに込められました。